

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：82723

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00314

研究課題名（和文）明治文芸における新旧対立と連続性 近世文学および日本美術史との関連から

研究課題名（英文）Old and new conflicts and continuity in Meiji literary arts-from the connection with early modern literature and Japanese art history

研究代表者

井上 泰至 (Yasushi, Inoue)

防衛大学校（総合教育学群、人文社会科学群、応用科学群、電気情報学群及びシステム工学群）・人文社会科学群・教授

研究者番号：90545790

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：明治期における、文芸・美術の新旧対立と交錯について、ジャンルを越境して考察することによって、新旧対立は新派側からの戦略的挑発として出発しながら、やがて両者の境界が曖昧になり、明治40年代に至って、日本文学・日本画の概念が、ナショナリズムと歩調を合わせて定位していく流れに見通しを付けることができた。

具体的には、日本画の新旧対立が、歌俳の新旧対立と時期的・内容的に重なること、俳句・短歌・演劇の「新派」の戦略性と旧派との関連性、日清・日露の両戦争によるナショナリズムの興隆・定着が、新旧対立の克服に寄与したことを演劇を中心に確認することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本画・日本文学という今日揺れを孕んでいる分野・制度の誕生の事情を見通すことができ、両ジャンルの今後における「所在」を見定める基礎的知見を提出でき、今後戦争と文学・美術の関連からこれを深めるべきという次なる課題も明らかになった。

研究成果の概要（英文）：By considering the old and new conflicts and intersections of literary arts and art in the Meiji era across genres, the old and new conflicts started as a strategic provocation from the Shinpa side, but eventually the boundary between the two became ambiguous, and the boundary between the two became ambiguous. In the 1980s, I was able to see the flow of the concept of Japanese literature and Japanese painting becoming localized in step with nationalism. Specifically, the old and new conflicts of Japanese painting overlap with the old and new conflicts of song and haiku in terms of time and content, the strategic nature of the "new school" of haiku, tanka, and theater and the relationship with the old school, Nissin and Japan. It was possible to confirm that the rise and establishment of nationalism due to the two wars of Russia contributed to overcoming the conflict between old and new, mainly in theater.

研究分野：日本文学

キーワード：新派 旧派 ナショナリズム 日本画 写生 戦争

## 1. 研究開始当初の背景

日本近代の「文学」の特性を考える場合、旧来の漢詩・和歌・俳句・演劇・美術の近代化への対応を見逃すことはできない。一見独立しているかに見えるこれら諸ジャンルの近代化への対応は、「旧派」と「新派」の相克・通底という点で、相互に関連している。

## 2. 研究の目的

本研究は、上記諸ジャンルの近代化への対応を、旧文学の「転生」と捉える視点に立って、相互を比較しながら明らかにし、日本近代文学・芸術における「自己発見」のありようの全体像を広く内外の視点から問い直す。また、それ以前の江戸の文学・芸術が持っていたアジアの伝統の中での多様性と可能性を掘り起こし、延いては、日本文学の「所在」を更新することを目的とする。

## 3. 研究の方法

2019年度は、3回の研究会を行った。1回目は、6月29日早稲田大学戸山キャンパスで。出口の近代小説と絵画論、および井上の新派俳句と絵画論の2本の研究発表。2回目は、9月29日上智大学で。日置の近代歌舞伎論と、研究スタッフ以外から伴野文亮(東北大学)の旧派俳句と思想の2本の研究発表。3回目は、2月9日東京大学駒場キャンパスで。研究スタッフ以外から、田部知季(日本学術振興会研究員)の新派俳句の定義の研究発表と、古田亮(東京藝術大学)への井上のインタビュー(明治文学の新旧と近代絵画の新旧)。また、10月26日、俳文学会全国大会で、井上が新派俳句の中の保守派である秋声会と日本画および江戸研究について発表を行った。

研究者代表者の井上の専門が俳句であるため、俳句についての研究が中心となり、新派と旧派の党派性の実態とその区分の意味を、俳句のみならず、学問・思想・メディア・美術の観点から問い直し、漢詩文・短歌・演劇・小説との関連性についても、いくつかの論点が浮かび上がってきた。

これらの成果を受けて、10月から井上は、ミネルヴァ書房の日本評伝選のシリーズで『正岡子規』を執筆を終えた。また、京都府立歴史館所蔵の伊藤松宇旧蔵の子規関係資料を複写し、翻刻中である。子規の存在は、漢詩文・短歌・演劇・小説との関連性もあり、ここを突破口に研究全体の引っ張っていつている状況である。日置・松澤・多田は、『源実朝—虚実を越えて』(勉誠出版)において、短歌・演劇・小説の分野からそれぞれ、この「写生」歌人の先駆けと目された実朝の評価に迫った。

2020年度は、オンライン研究会を2回行った。5月に木村洋氏は、明治文学史の登場を文明史からの転換という広い視点で報告した。9月には、青山英正氏の新著『幕末明治の社会変容と詩歌』の合評会と井上の旧派和歌の報告を行い、短歌革新をテーマとした。佐佐木信綱の旧派からの転向と、その背後に末松謙澄の存在がいることが浮かびあがってきた。なお、井上は9月に単著『正岡子規』を刊行、俳句のみならず多面的な活躍をした子規の活動の背景を、本科研の成果として公にした。日置は、明治戦争劇を新旧両派に渡って紹介。合山・多田は、近代の江戸的好古趣味について報告を行った。出口は小説の挿絵研究を、新旧絵画から迫った。松澤は新派和歌の言説について再検討を行った。

2021年度は、最終年度を迎え、3回のオンライン研究会を行った。5月研究発表は、山本聡美氏「やまと絵の近代 旧派形成をめぐる制度と言説」、増野恵子氏「近代日本美術の歴史画題について」。8月研究発表 合山林太郎氏「毒婦の造型と明治初期のメディア・ジャンル—ヤンレ節『名も高橋お伝の新聞』を視座として—」、合評会 日置貴之氏『明治 期戦争劇集成』(私家版、2012年2月) コメントは井上泰至、土田牧子氏。12月研究発表 松澤俊二:「折衷派」再考—落合直文の作歌実践を視点にして」、合評会:井上泰至著『正岡子規 俳句あり則ち日本文学あり』(ミネルヴァ書房、2020年)。第1回は、美術史の新旧ジャンルの更新、第2回は演劇における新派生成とニュース・戦争、第3回は、短歌の新派における位相の重層性が焦点化された。

以上で、美術史・演劇芸能・短歌・俳句最終年度に相応しく、全ての分野をカバーして日清戦争期までを中心とした、新派旧派の葛藤の様相について検討を行うことができた。新派旧派の対立は、メディアを舞台にした表層的な面が濃く、日清・日露の戦間期に、新旧が混淆して、ジャンルの形成・更新の基礎が生まれていく見通しがついた。以上3年間の成果を集約して、勉誠出版で論文集を刊行することを決定し、残る日露戦争期への展開=ジャンル・制度の確定という問題の検討のため、新たに継続的に科研申請をすることを決定した。

## 4. 研究成果

[雑誌論文] 与謝野晶子はどのように「記憶」されたか：戦後の堺市における顕彰活動に注目して

松澤俊二

人間文化研究 巻: 13 ページ: 35-57

[雑誌論文] 尾崎紅葉「多情多恨」の挿絵戦略 自筆の指示画から考える画文学  
出口智之

国語と国文学 巻: 97 - 5 ページ: 3-19

[雑誌論文] 虚子、二十歳の原点

井上泰至

夏潮虚子研究号 巻: 10 ページ: 1-13

[雑誌論文] 秋声会雑誌『卯杖』と日本画

井上泰至

連歌俳諧研究 巻: 139 ページ: 15-21

[雑誌論文] 「趣味」(Taste)とは何か 近代の「好古」

多田蔵人

好古趣味の歴史巻: 1 ページ: 197-214

[雑誌論文] 江戸漢詩の名所詠と永井荷風

合山林太郎

好古趣味の歴史 巻: 1 ページ: 221-233

[雑誌論文] 徳富蘇峰の思想と文体 『国民之友』創刊前後

木村洋

鈴木健一編『明治の教養 変容する 和 漢 洋』 巻: 1 ページ: 198-217

[雑誌論文] 品格ある写生

井上泰至

俳句 巻: 68 - 4 ページ: 52-55

[雑誌論文] 「時雨」と「心」 「二三子や時雨るる心親しめり」考

井上泰至

夏潮別冊虚子研究号 巻: 9 ページ: 1-10

[雑誌論文] 影の薄い將軍 伝統演劇における実朝

日置貴之

アジア遊学 巻: 241 ページ: 167-179

[雑誌論文] 近代歌人による源実朝の発見と活用

松澤俊二

アジア遊学 巻: 241 ページ: 180-193

[雑誌論文] 小林秀雄『実朝』論

多田蔵人

アジア遊学 巻: 241 ページ: 194-210

[雑誌論文] 大沼枕山・鶴林と永井荷風『下谷叢話』

合山林太郎

二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」

巻: 1 ページ: 35-35

[学会発表] もう一つの「新派」 「卯杖」発行人牧野望東の活動を中心に

井上泰至

俳文学会

[図書] 明治期戦争劇集成

日置貴之

ページ数 376 私家版

[図書] 正岡子規

井上泰至

総ページ数 217 ミネルヴァ書房

[図書] 荷風追想

多田蔵人

総ページ数 504 岩波書店

[図書] 中世仏教絵画の図像誌

山本聡美

総ページ数 504 吉川弘文館

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 松澤俊二	4. 巻 13
2. 論文標題 与謝野晶子はどのように「記憶」されたか：戦後の堺市における顕彰活動に注目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間文化研究	6. 最初と最後の頁 35 - 57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 出口智之	4. 巻 97 - 5
2. 論文標題 尾崎紅葉「多情多恨」の挿絵戦略 自筆の指示画から考える画文学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 3 - 19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 井上泰至	4. 巻 10
2. 論文標題 虚子、二十歳の原点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 夏潮虚子研究号	6. 最初と最後の頁 1 - 13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 井上泰至	4. 巻 139
2. 論文標題 秋声会雑誌『卯杖』と日本画	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 連歌俳諧研究	6. 最初と最後の頁 15 - 21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多田蔵人	4. 巻 1
2. 論文標題 「趣味」(Taste)とは何か 近代の「好古」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 好古趣味の歴史	6. 最初と最後の頁 197 - 214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 合山林太郎	4. 巻 1
2. 論文標題 江戸漢詩の名所詠と永井荷風	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 好古趣味の歴史	6. 最初と最後の頁 221 - 233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 井上泰至	4. 巻 68 - 4
2. 論文標題 品格ある写生	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 俳句	6. 最初と最後の頁 52 - 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上泰至	4. 巻 9
2. 論文標題 「時雨」と「心」 「二三子や時雨るる心親しめり」考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 夏潮別冊虚子研究号	6. 最初と最後の頁 1 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日置貴之	4. 巻 241
2. 論文標題 影の薄い將軍 伝統演劇における実朝	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 167 - 179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松澤俊二	4. 巻 241
2. 論文標題 近代歌人による源実朝の発見と活用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 180 - 193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多田蔵人	4. 巻 241
2. 論文標題 小林秀雄『実朝』論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊び学	6. 最初と最後の頁 194 - 210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村洋	4. 巻 1
2. 論文標題 徳富蘇峰の思想と文体 『国民之友』創刊前後	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鈴木健一編『明治の教養 変容する 和 漢 洋 』	6. 最初と最後の頁 198 - 217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 合山林太郎	4. 巻 1
2. 論文標題 大沼枕山・鶴林と永井荷風『下谷叢話』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」	6. 最初と最後の頁 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 井上泰至
2. 発表標題 もう一つの「新派」 「卯杖」発行人牧野望東の活動を中心に
3. 学会等名 俳文学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 井上泰至	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 217
3. 書名 正岡子規	

1. 著者名 日置貴之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 私家版	5. 総ページ数 376
3. 書名 明治期戦争劇集成	



1. 著者名 多田 蔵人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 504
3. 書名 荷風追想	

1. 著者名 山本聡美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 504
3. 書名 中世仏教絵画の図像誌	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山本 聡美 (Yamamoto Satomi)  (00366999)	早稲田大学・文学学術院・教授  (32689)	
研究分担者	合山 林太郎 (Goyama Rintaro)  (00551946)	慶應義塾大学・文学部(三田)・准教授  (32612)	
研究分担者	出口 智之 (Deguchi Tomoyuki)  (10580821)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松澤 俊二  (Mastuzawa Shinji)  (60582822)	桃山学院大学・社会学部・准教授    (34426)	
研究分担者	木村 洋  (Kimura Hiroshi)  (70613173)	上智大学・文学部・准教授    (32621)	
研究分担者	日置 貴之  (Hioki Takayuki)  (70733327)	明治大学・情報コミュニケーション学部・専任准教授    (32682)	
研究分担者	多田 蔵人  (Tada Kurahito)  (70757608)	国文学研究資料館・研究部・准教授    (62608)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関